



不用になった鍵盤ハーモニカとリコーダーを市民から集めてアフリカなどの発展途上国の子供たちに贈る浜松市のNPO法人のプロジェクトが10年目を迎えた。

途上国の地方都市では楽器といえば太鼓やマラカスなどで、音階を奏でる楽器に初めて触れる子供が多いという。国際協力機構の隊員の手ほぎ

海外で響く浜松の音色

で、国歌や日本の歌を練習して披露しているようだ。資源を有効利用することにより、通算11回の贈呈で総重量1トンを超えるごみの減量にもつながっている。

NPOのスタッフは「夢のような話かもしれないが、将来子供たちの中から音楽家が育ってくれたらうれしい」と話す。音楽のまち発祥の「音色」が世界中に響き渡ることに期待したい。

(浜松総局・小糸恵介)